

日替わり部分
八調経 卷1

3 調

常に変わらない枠組みとなる



の楽譜の

3調マークの箇所に挿入して組み立てる

スボ夕晩 課

【首唱(103)聖詠】「我が靈や」、【大連禱】

【カフィズマ】第一段「悪人の謀」歌う、

【小連禱】

3 調

「主や、爾によぶ」主日3調 [時課経 P182]

◇時課経 P180「主や我が口に」～P183「…強ければなり」まで省略

わ たましい ひとや ひ いだ われ なんじ な さんえい たま
句)、我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給へ。

きゆうせいしゅ なんじ じゅうじか し けん ほろぼあくま いざない むな
ハリストス救世主よ、爾の十字架にて死の權は滅され、悪魔の誘惑は空しくせられ
しん もつ すく ひと やから つね うた なんじ たてまつ
たり。信を以て救はるる人の族は恒に歌を爾に奉る。

なんじおん われ たま としき ぎじん われ めぐ
句)、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん。

しゅ なんじ ふつかつ ほんゆう てら らくえん ふたたびひら ことごと ぞうぶつ なんじ ほ あ つね うた
主よ、爾の復活にて萬有は照され、樂園は再開されたり。悉くの造物は爾を讚め揚げて、恒に歌

なんじ たてまつ
を爾に奉る。

句)、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

われ ちちおよ こ ちから あが せいしん けん うた わか つく しんせい いったい さんしゃ よよ おう もの
我は父及び子の能力を崇め。聖神の權を歌ひ、分れず造られざる神性、一體の三者、世に王たる者を
ほ ぬめ 揚ぐ。◇以下適宜省略されることが多い

又アナトリイの讃頌、同調。

句)、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

ハリストスよ、我等爾の尊き十字架に伏拜し、爾の復活を歌頌讃榮す、蓋爾の傷に因りて我等皆癒さ
れたり。

句)、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬ま
ん爲なり。

われら どうていじよ み と きゆうせいしゅ うた けだしわれら ため じゅうじか てい みつかめ かつかつ われら
我等は童貞女より身を取りし救世主を歌ふ、蓋我等の爲に十字架に釘せられ、三日目に復活して、我等
におおい あわれみ たま
に大なる憐を賜へり。

句)、我主を望み、我が靈主を望み、我彼の言を恃む。

ハリストスは降りて、地獄に在る者に福音して白へり、勇めよ、今勝てり、我は復活なり、我死の門を破
りて、爾等を引き上げん。

句)、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

ハリストス神よ、我等爾の至淨なる家に立つに堪へざる者は晩の歌を奉りて、深き心より籲ぶ、爾の
三日目の復活にて世界を照しし人を愛する主よ、爾の民を爾の諸敵の手より脱れしめ給へ。

句)、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリ
を其悉くの不法より贖はん。

童貞女よ、我何事に遇ひても爾の神聖なる恩寵を呼ぶ者に慈憐を垂れて、速に聴き給へ、蓋我が靈
の望を一切爾に負はせたり。我萬事に於て爾の神聖なる慮を恃む、爾我に將來の光榮及び神聖な
る生命をも獲しめ給へ。

句)、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

生神女よ、我が諸愆の炭は我の中に燃えたり。祈る、女宰よ、怒と憤、沉湎と邪淫、貪婪と頑固、怠惰
と煩悶、驕慢と良心に戻る事より吾が靈を脱れしめて、我を救
ひ給へ。

句)、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

われら みないきぎよ りょうしん もつ しょうしんじよ まえ ふふく こころ うち たえず よばん せいなる じよさい われら しゅう
我等皆潔き良心を以て生神女の前に俯伏して、心の内より絶えず呼ばん、聖なる女宰よ、我等衆を

いかり うらみ わざわい いざない すく たま けだしわれら なんじ かき およ かねめ え なんじ おおい した ほし つ
 愠怒と忿恨、災禍と誘惑より救ひ給へ。蓋我等は爾を垣牆及び保固として獲て、爾の幘の下に趨り附
 きて、爾に依りて救はる。

◇生神女ドグマティク

光榮は父と子と聖神に帰す今もいつも世世にアミン
 いと尊トクときものやわれらいかで汝が神人カミヒトを生みしに
 おどろかざらんや至イってきずなきものや汝は夫のいざオット
 ないをうけずして世のなき先サキより母なく父に生まれいざ
 さかも変カり或いはまじり或いは分ワカれをうけず三つの性セイの
 質シツを全マツうして守れる子を父なく身ミにて生ウめり故ユエに
 母童貞女ハハ メイ ぢよ ぢよ女メさいや正しく汝を生神女シヨウシンヂョとうけとむるもの
 たましいの救スツわること をかれにいのりたまえ

◇【聖にして福たる】 →通常部分 (P7/8「聖にして福たる」へ戻る

【スポタのポロキメン】(6調) 第92聖詠1-5

重連禱

誦経「主や我等を守り」

増連禱

(増連禱が終わったら)

3 調

挿句) のスティヒラ

○挿句) に主日の讃頌、第三調。

おのれ くるしみ ひ くら おのれ ふっかつ ひかり ばんぶつ てら ひと いつくし しゅ われら くれ
己の苦にて日を晦くし、己の復活の光にて萬物を照ししハリストス、人を慈む主よ、我等の晩の
うた い たま
歌を納れ給へ。

他の讃頌

しゅ おう かれ いげん き
句)、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。

しゅ なんじ いのち ほどこ ふっかつ ぜんせかい てら なんじ く ぞうぶつ おこ ゆえ われら のろい
主よ、爾が生命を施す復活は全世界を照して、爾の朽ちたる造物を興せり。故に我等アダムの詛を
だつ よ ぜんのう しゅ こうえい なんじ き
脱して呼ぶ、全能の主よ、光榮は爾に歸す。

ゆえ せかい けんご うご
句)、故に世界は堅固にして動かざらん。

なんじ へんえき かみ み くるしみ う へんえき ぞうぶつ なんじ じゅうじか かか み た
爾は變易せざる神にして、身にて苦を受けて變易せり。造物は爾が十字架に懸れるを見るに堪へず
おそれ よ へん たんそく なんじ ごうにん ほ あ なんじ じごく くだ みっかめ ふっかつ
して、恐懼に由りて變じ、歎息して爾の恒忍を讃め揚げたり。爾は地獄に降り、三日目に復活して、
せかい いのち おおい あわれみ たま
世界に生命と大なる憐とを賜へり。

しゅ せいとく なんじ いえ ぞく えいえん いた
句)、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

なんじ わ やから し すく ため し の みっかめ し ふっかつ なんじ かみ しきにん
ハリストスよ、爾は我が族を死より救はん爲に死を忍び、三日目に死より復活して、爾を神と識認せ
もの おのれ とお ふっかつ せかい てら たま しゅ こうえい なんじ き
し者を己と偕に復活せしめて、世界を照し給へり。主よ、光榮は爾に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

なんじ たね せいしん よ ちち むね もつ かみ こ よ な さき はは ちち うま もの ほら われら
爾は種なく聖神に由りて、父の旨を以て、神の子、世の無き先に母なく父より生れし者を妊み、我等の
ため ちち なんじ あ もの み う おさなご もの ち やしな かれ われら たましい しょなん のが
爲に父なく爾より在りし者を身にて生み、嬰たる者を乳にて養へり。彼に我等の靈を諸難より脱
れしめんことを息めずして禱り給へ。

→通常部分 P10「シメオンの祝文」へ戻る

【シメオンの祝文】「主宰や今爾の言に従いて」

「聖三祝文」「至聖三者」「天主經」

司祭 蓋^{けだし}国と権能と光榮は爾父と子と聖神^{いっ}に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

「生神童貞女や、慶べよ」

「願わくは主の名は崇めほめられ……」

司祭 発放詞

早 課

P12【六段の聖詠】【大連禱】に続いて

<カフィズマ、セダレンは省略>

3 調

主は神なり、主日トロパリ

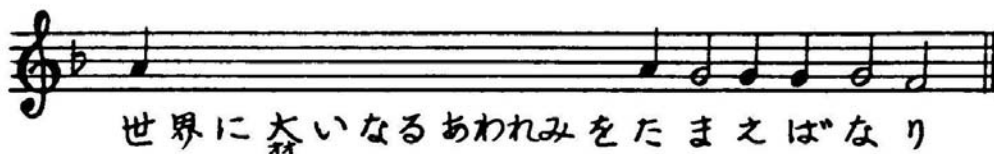
主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



→通常部分 P14 【ポリエレイ】「主の名を讃め揚げよ」

<ポリエレイ後のセダレン、ネポロチニ省略>

【復活のエフロギタリア】「主や爾は崇め讃める」

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

3 調

【アンティフォン】

品第詞、第三調。第一倡和詞、毎句) 復唱す。

ことば なんじ とりこ ひ いだ われ しょよく いのち ひ よ たま
言よ、爾はシオンの虜をワフィロンより引き出せり、我をも諸愆より生命に引き寄せ給へ。
みなみかぜ とき しんせい なみだ もつ ま もの よろこび もつ えいせい ほ か
南風の時に神聖なる涙を以て播く者は、喜を以て永生の穂を刈る。

光榮 (今も)

せいしん およそ よ たまもの ぞく けだしかれ ちちおよ こ とも かがや ばんぶつ かれ よ う かつうご
聖神には凡の善き賜は屬す、蓋彼は父及び子と偕に輝き、萬物は彼に頼りて生き且動く。

◇以下 省略 今も、同上。

提綱、第三調

しょみん い しゅ おう ゆえ せかい けんご うご
諸民に言ふべし、主は王たり、故に世界は堅固にして揺かざらん。
あらた うた しゅ うた ぜん ち しゅ うた
句)、新なる歌を主に歌へ、全地よ、主に歌へ。

Zm 3調

諸民に言うべし、主は王たり、ゆえに世かいは

堅固にして うごかざらん。

→通常部分 P17

【福音の読み】

【福音後のスティヒラ】「ハリストスの復活を見て」

輔祭 「神よ爾の大なる憐れみによって」「主憐れめよ」 12 回

3 調 カノン イルモス簡単バージョン

主日のカノン、第3調

○主日の規程、第三調。

第一歌頌

イルモス、昔神妙の瞬にて水を一区に匯め、又イズライリ人の爲に海を分ちし者は、是れ崇め讃めらるる吾が神なり。我等獨彼に歌はん、彼光榮を顯したればなり。

第1歌頌

昔 神妙の瞬 一 区に 水を一區にあつめ
 また イズライリ人のために海を分ちし者は
 これ崇め讃めらる我がかみなり我等一人彼に歌わん
 かれ光榮をあら顯したればなり

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

土を擬定して、罪を犯しし者の爲に汗の果として荊棘を出すことを命ぜし主、法に戻る手より身にて
 荊棘の冠を受けし者は、是れ吾が神なり。彼は詛を滅し給へり、光榮を顯したればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

苦に與る生ける身を受けしに因りて死を懼れし者は、死に勝ちて之を破る者と顯れたり、是れ吾が
 神なり。彼は殘虐者と戦ひて、衆人を己と偕に復活せしめ給へり、光榮を顯したればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

萬族は爾種なく生みし者を眞の生神女と讃榮す、蓋爾の聖にせられし腹に降りし者は是れ吾が神なり。
 彼は我等の爲に我等に肖たる者と爲りて、爾より神及び人として生れ給へり。

<●十字架のカノン、生神女のカノンは省略>

第三歌頌

イルモス、言にて造られ、聖神にて備へらるる萬物を無より出しし至上なる全能者よ、爾の愛に我を固め給へ。

第3歌頌

ことばにて つくら-れ 聖神にて備えらるる 万ぶ--つを
 無きより 出だせ-し 至上なる 全能者や
 爾の 愛に 我を かた-めたま--え

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾の十字架を以て不虔者は辱しめられたり、蓋 阱を掘り、之を竣へて、自ら其中に陥り、謙卑の者の角は爾の復活に藉りて擧げられたり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

人を愛する主よ、聖教の傳道が諸民に廣布するは水の海に溢るるが如し、蓋 爾は墓より復活して、聖三者の光を顯し給へり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

永遠に王たる主の活ける城邑よ、光榮の事は爾に於て傳へられたり、女宰よ、爾に藉りて神が地上の者と偕に居りたればなり。

◇小連禱

第四歌頌

イルモス、主よ、爾は強き愛を我等に顯せり、我等の爲に爾の獨生子を死に付したればなり。故に我等感謝して爾に呼ぶ、主よ、光榮は爾の力に歸す。(楽譜は次ページ)

第4歌頌

主よなんじは 強き 愛を 我等に 顯わ--せり
 われらのために 爾の 獨生の子を 死に付したればな--り



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は慈憐に因りて瘡痕と毀傷とを受け、頬を批つ陵辱を忍び、恒忍にして唾せらるるを堪へ、此等を以て我が爲に救を成し給へり。主よ、光榮は爾の力に歸す。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

至榮なる生命よ、爾は貧しき者を苦より、乏しき者を嘆より救はん爲に、死に屬する身にて死を受け、壞りし者を壞り、衆人を己と偕に復活せしめ給へり、光榮を顯したればなり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讚詞

主ハリストスよ、爾の苦にて獲たる牧群を記念し、爾の至榮なる母の慈憐なる禱を受けて、迫害せらるる者を顧みて、爾の力を以て之を救ひ給へ。

第五歌頌

イルモス、爾萬物を造りし主、悟り難き平安に、朝の禱を奉る、爾の誠は光なるに因りて、我に之を教へ給へ。



附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

義を以て全地を審判する見ざる所なき主よ、爾はエウレイ人の媚嫉に因りて不義なる審判者に付されて、古のアダムを定罪より脱れしめ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

死より復活せしハリストスよ、爾の十字架の勝たれぬ力を以て爾の平安を爾の諸教會に與へて、我が靈を救ひ給へ。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

永貞童女よ、爾は獨萬物の中に容れられざる神の言を容れて、天より至りて宏き聖なる幕と顯れたり。

第六歌頌

イルモス、今を限の罪の淵は我を圍み、我が靈は亡びんとす。祈る、主宰教導者よ、爾の高き手を伸べて、我をペトルの如く救ひ給へ。

第6歌頌

今を 限りの 罪の 淵は 我を か こ め り
我がたましいは 亡び -んとす 祈る 主宰 教導者よ
爾の高き手を のべて 我をペトルのごとくすくいたま え

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

主宰よ、爾の仁慈なる降臨に因りて、慈憐と洪恩との淵は我を圍めり。蓋爾は身を取り、僕の形を受けて、我を神成して、己と偕に光榮を獲しめ給へり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

殺す者は殺されし主の生かされたるを見て、死に服せり。ハリストスよ、是れ爾の復活の表式、爾の至淨なる苦の勝利の記號なり。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

智慧に超えて獨造成主及び人人の轉達者と爲りし至淨なる者よ、爾の子が罪を犯しし爾の諸僕に慈憐を垂れて、援助を施さんことを祈り給へ。

◇小連禱

コンダク

○小讃詞、第三調。

じれん しゅ なんじ いまはか ふっかつ われら し もん のぼ たま いま たの よろこ
慈憐なる主よ、爾は今墓より復活して、我等を死の門より升せ給へり。今アダムは楽しみ、エワは歡
び、諸預言者は列祖と偕に絶えず爾の權柄の神聖なる能力を讃め歌ふ。

第七歌頌

むかしけいけん みたり しょうしゃ ほのお すず ごと われら しんせい あき ひ
イルモス、昔敬虔なる三人の少者をハルデイの焔に涼しくせし如く、我等をも神性の明るき火にて
かがや たま わ せんぞ かみ なんじ あが ほ よ
輝かし給へ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらると呼べばなり。

第7歌頌

みたり しょうしゃ ほのお
むかし 敬虔なる三人の少者を ハルデイの焔に涼しくせし
ごと - - - - く われらをも 神性の明るき火にて
輝かしたま - - - - え 我が先祖のかみよ
爾は 崇め讃めらると 呼べば な - - - り

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ぞうぶつしゅ じゅうじか てい とき でん うるわ まく さ せいしょ かく しんり しんじゃ あらわ ゆえ
造物主の十字架に釘せらるる時、殿の美しき幔は裂けて、聖書に隠れたる眞理を信者に顯せり。故に
かれらよ わ せんぞ かみ なんじ あが ほ
彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

なんじ わき さ なんじ ていせい よ ち したた いのち ほどこ しんせい ち したたり
ハリストスよ、爾の脅の刺されしに、爾は、定制に由りて、地に滴る生命を施す神聖なる血の點滴
もつ ち つく もの あらた つく たま ゆえ くれらよ わ せんぞ かみ なんじ あが ほ
を以て、地より造られし者を改め造り給へり。故に彼等呼ぶ、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

聖三者讃詞

われら しんじゃ せん しん ちちおよ どくせい こ とも さんえい さんい うち ゆいいち げん ゆいいち しんせい どうと よ
我等信者は善なる神を父及び獨生の子と偕に讃榮し、三位の中に惟一の元、惟一の神性を尊みて呼ば
わ せんぞ かみ なんじ あが ほ
ん、吾が先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に悩まされずして、神聖なる歌を歌へり、
 主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

第8歌頌

敬虔の範たる少者は堪え難き火に入れられしに
 ほのほに悩まされずして神聖なる歌を歌えり
 主の悉くの造物は主をあげめて
 世世に讃めあげよ

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

爾の十字架の髑髏の處に樹てられしに、殿の裝飾は裂かれ、造物は恐懼に由りて傾きて歌へり、主
 の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

ハリストスよ、爾は墓より復活して、木に縁りて誘はれて陥りし者を神聖なる力を以て改め給へり。
 故に彼呼びて云ふ、主の悉くの造物は主を崇め歌ひて、世世に彼を讃め揚げよ。

父と子の聖神の一なる神を讃め揚げん、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

至淨なる神の母よ、爾は神の殿、活ける居處、及び約匱と顯れたり、爾は造物主を人々と和げ給へ
 り。我等悉くの造物は宜しきに合ひて爾を歌ひて、萬世に崇め讃む。

◇生神女の歌、「我が靈は主を崇め」、附唱「ヘルウィムより尊く」歌う。

我が心は主を崇め、我が靈は神我が救主を悦ぶ。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え、貞操を破らずに神ことばを生みし実の生神女
 たる爾を崇め讃む。

第2句) その婢の卑しきを顧み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく榮え……

第3句) ^{ちから}権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、
 其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第4句) 其の肘の力を表して、心の驕れるものを散らし給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第5句) 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第6句) 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、
 アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

(附唱) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え……

第九歌頌

イルモス、^{かみ}神に^{かな}適ふ^{あら}新なる^{きせき}奇蹟や、^{しゆ}主は^{あら}顯に^{どうていじよ}童貞女の^と閉せる^と戸を通り、^い入るときは^{むけい}無形の^{かみ}神にして、^{いだ}出づるときは^{じんたい}人體を^き衣たる^{もの}者となり、^と戸は^{もと}元の^{まま}儘^{とご}閉せり。我等^{われ}彼を^ら神の^{かれ}母として、^{かみ}言ひ^は難く^い崇め^{がた}讃む。^{あが}(楽譜次ページ)

第9歌頌

かみに ^{かな}適う ^{あら}新なる ^{きせき}奇 せきや 主は ^{あら}顯わに ^{どうていじよ}童貞女の
 閉ざせる 戸を 通 - - り 入るときは 無形のかみとして
 出づる時は 人體を ^き衣たる者とな - - り、 戸は もとのまま
 閉ざせ - り われら 彼を 神の ^は母 ^はとして
 言いがたく あ が - - - め - 讃 む

附唱、主よ、^{しゆ}光榮は^{こうえい}爾の^{なんじ}聖なる^{せい}復活に^{ふっかつ}歸す。^き

神の言よ、^{かみ}爾^{ことば}造物主が^{なんじぞうぶつしゆ}木に^き擧げられ、^あ神が^{かみ}諸僕の^{しよぼく}爲に^{ため}身にて^み苦^{くるしみ}を受け、^う氣息^{いき}なくして^{はか}墓に^ふ臥し、^{ししや}死者
 を^{じごく}地獄より^と解き^{たま}給ひ^みしを見る^{おそ}は^{かな}畏る^{ゆえ}べき哉。故に^{われ}ハリストスよ、^{なんじ}我等^{ぜん}爾^{のうしや}を^{あが}全能者として^ほ崇め讃む。

しゅ こうえい なんじ せい ふっかつ き
 附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

なんじ ししゃ はか お れつそ し きゅうかい すく いのち はな ひら ししゃ
 ハリストスよ、爾は死者として墓に置かれて、列祖を死の朽壞より救ひ、生命の花を發きて、死者を
 ふっかつ ひと せい ひかり みちび しんせい ふきゆう これ き たま ゆえ われら なんじ えいざい ひかり いずみ
 復活せしめ、人の性を光に導き、神聖なる不朽を之に衣せ給へり。故に我等爾を永在の光の泉とし
 あが ほ
 て崇め讃む。

光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々にアミン

生神女讃詞

じゅんけつ もの なんじ かみ でんおよ ほうざ あらわ しじょうもの これ い おつと なんじ うま なんじ たい
 純潔なる者よ、爾は神の殿及び寶座と現れたり、至上者は之に入り、夫なく爾より生れて、爾の體
 もん ひら ゆえ いさぎよ もの なんじ や きとう もつ しよてき すみやか わ こうてい ふく たま
 の門を啓かざりき。故に潔き者よ、爾の息めざる祈禱を以て諸敵を速に我が皇帝に服せしめ給へ。

→通常部分へ戻る P29

◇ 小聯禱

「主我等の神は聖なり」

【差遣詞】

3 調 【讃揚歌とスティヒラ】



およそいきあるものは主をほめあげよ天より主をほ
 めあげよ 至と高きにかれをほめあげよほめ歌は汝
 かみにきすそのことごとくの神使やかれを
 ほめあげよそのことごとくの軍やかれをほめあげ
 よほめ歌はなんじかみに帰す

→通常部分 P30 に戻る 【大詠頌】を歌う